

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
89	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Stroke incidence in women under 60 years of age related to alcohol intake and smoking habit. 60歳未満女性における脳卒中発症と飲酒習慣、喫煙習慣の関連について	
執筆者	
Lu M, Ye W, Adami HO, Weiderpass E.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Cerebrovasc Dis. 2008;25(6):517-25. Epub 2008 May 15.	
キーワード	
女性、脳卒中、飲酒習慣、喫煙習慣、前向きコホート研究	
要 旨	
<p>目的： 女性、特に若年女性における脳卒中と喫煙習慣、飲酒習慣との関連については明らかではない。本研究では若年女性における脳卒中と喫煙習慣、飲酒習慣との関連について検討する。</p> <p>方法： 本研究の対象者は30歳から50歳のスウェーデン女性45,449人を対象とした前向きコホート研究の参加者で1991年から1992年の調査開始時点で脳卒中や冠動脈疾患の既往のない者である。飲酒習慣や喫煙習慣の情報は調査開始時点で質問票により聴取した。脳卒中の発症はスウェーデンの入院登録データとの統合により同定した。Cox比例ハザード回帰モデルにより相対危険度(RR)ならびに95%信頼区間(CI)を算出した。</p> <p>結果： 11年間の追跡期間中に脳卒中を170例確認した。そのうち111例は脳梗塞、47例は脳出血であった。非飲酒者と比較すると脳卒中のリスクは一週間あたり20g未満の飲酒者(RR=0.7,95%CI0.5-1.0)や20gから69.9gの飲酒者(RR=0.5,95%CI0.3-0.7)で脳卒中リスクは減少していた。一方、一週間あたり70g以上の飲酒者では脳卒中リスクは減少していなかった(RR=0.7,95%CI0.4-1.3)。アルコールの種類と脳卒中リスクには関連を認めなかった。非喫煙者と比較すると喫煙者では脳卒中リスクの増加を認めた(1-9本/日 RR=2.3,95%CI1.5-3.7,10本/日1以上 RR=2.6,95%CI1.7-4.1)。喫煙による過剰リスクは主に脳梗塞で認められた。非喫煙かつ非飲酒を対照とすると喫煙者で飲酒しない者の脳卒中リスクは4倍であるが、中等量飲酒する場合、リスクは1.5倍に軽減されていた。</p> <p>結論： 少量から中等量の飲酒はアルコールの種類にかかわらず60歳未満の女性、特に非喫煙者において脳卒中のリスクを減少させる。喫煙は脳卒中、特に脳梗塞のリスクを増加させる。</p>	